

(1) 同志社女子大学を志望校・受験校と決めた理由。

同志社女子大学は総合大学ということで、音楽はもちろんのこと、音楽以外の学問も幅広く学べるのではないかと思います。また、音楽学科演奏専攻ではピアノだけでなく、声楽・管弦打楽器のコースがあり、普通科出身である私にとって他の楽器の音楽を身近に感じられる環境はとても嬉しいとでした。そして今まで私は公立校で学んできたのでキリスト教の教えに触れることができることも貴重な学びになると思えました。

(2) 一般入試対策としての受験勉強、実技試験対策の進め方について。 ※音楽学科入試課題については、『2020年度音楽学科入試課題』で必ずご確認ください。

〔1学期〕

1学期の頃は部活動(運動部)でインターハイの予選まで活動していました。したがって常に時間が足りないと感じていました。そのため勉強は主に学校の課題と授業を重視し、ピアノの実技練習は部活から帰ってきたあとの短い時間を使って練習していました。

〔夏休み〕

夏休みに入り、やはりピアノの練習に時間が取れるようになり、また練習し始めていない曲もあつたのでとにかく曲の雰囲気をつかむこと、また身に付けていないテクニックを習得することに専念しました。午前中に実技の練習をし、午後に筆記の勉強をし、またそれを逆にしたりして飽きないように工夫しました。それでも毎日同じことを繰り返していると、飽きてしまうこともありましたが、そのようなことは努めて思わないことを意識しました。

〔2学期～入試直前〕

2学期からは学校では休憩時間を利用して学科や楽典の勉強をし、家では実技の練習に集中できるようにしていました。私が高の人よりも練習してきた時間が圧倒的に少なく、また練習する時間も夜しか確保できなかったため、時間よりも内容を大切にできるように意識しました。例えば、一音一音の響きを感じ、正確で豊かなリズム感が身につくように努力しました。またセンター試験も受けたと決めていたので、それまでにある程度曲を仕上げ、センター前は学科勉強に集中できるようにしました。センターが終わると、一日のほとんどを実技の練習に費やしました。

(3) この一年間の受験生活において、受験勉強と高校の行事やクラブ活動の両立、健康面での注意、テレビやスマートフォン等との付き合い方、スランプとその対処法について。

とにかく授業に集中し、課題は出来るだけ学校で終わらせ、放課後は部活という生活でした。家では時間の許可限り、実技の練習をしました。また高校行事は受験勉強の息抜きと思い思いやり楽しみ、受験勉強とのメリハリをつけました。健康面では、体調が優れず悪化するかもと思った時は思い切り学校を休み、早めに薬を飲むなどしました。テレビやスマートフォンは元々、電子機器に時間を費やしてしまっているのでもっと減らした。とにかく実技練習の不足している所を補うことに必死で「スランプにはついでに記憶はあまりありません。

(4) 受験を終えて、受験生のみなさんへのメッセージ。

普通科の学校に通っている中、私が音楽の道に進もうと決めたのは高3の4月です。(もちろんピアノは小さい時から習っていました。) さらに部活もあつたので、練習に本気ばかりを入れ始めることができたのは夏休みからでした。それでも私は入試まで曲を完成させるのが間に合わないと思った事はありませんでした。とにかくみなさんも諦めずに頑張ってみてください。